

令和2年度 千葉県標準学力検査 結果の概要

県平均との比較に正答率を加味した分析結果から、小学校では、3学年の国語科、算数科、6学年の算数科において学習内容が身に付いていると考えられる。また、社会科、理科においては全学年・市全体において、学習内容が身に付いていると考えられる。それ以外の学年・教科についても学習内容が概ね身に付いていると考えられる。中学校では、全学年・全教科において学習内容が概ね身に付いていると考えられる。

今後、GIGA スクール端末等の ICT 機器の活用により、児童生徒一人一人の実態に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図るとともに、新学習指導要領で重視されている主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、身に付けた知識・技能等を様々な場面で活用する力を育成することが大切である。

○指導改善のポイント

小学校 国語

- ・「言語」の領域では、漢字の学習や語句の学習などの基礎的・基本的な学習内容について、反復練習や小テスト等による習熟状況の確認が効果的である。今後、GIGA 端末を活用したドリル学習や小テスト等の実践が期待される。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、友達の意見を聞くときや自分の意見を話すときの約束等について、発達段階に応じた指導を見直すとともに、話し手の意図を理解しながら聞く機会や、要旨をメモに取りながら聞く機会を授業等で意図的に設定することが必要である。
- ・「書くこと」の領域では、図表やグラフを引用して書くことや、自分の言葉で適切に表現することを苦手とする傾向もみられる。簡単な文章を作る機会や、自分の考えを短い文章で表現する機会を日常的に設定することが必要である。
- ・「読むこと」の領域について、ブックリスト・授業での学校図書館の活用等をとおして、さらなる読書活動の充実を図り、本に慣れ親しむ機会を作ることで、粘り強く文章を読み進める力を身に付けさせることが大切である。
- ・単に「本を読む」のではなく、目的（内容を要約して伝える、好きな場面や山場を紹介するなど）をもって読ませることで、要旨や心情を理解しながら文章を読み解く力を身に付けさせることが大切である。
- ・国語科のみならず他教科において、ノート指導の充実を図り、思考や学びを自ら整理する力を身に付けさせることが大切である。
- ・自分の言葉で学習のまとめを書く活動を授業の中に取り入れ、基礎的・基本的な知識を定着させたり、必要な情報を選択したりさせることで、自分の考えを形成し、説明する力を育成することが大切である。
- ・話し合い活動や交流活動において、目的意識の明確化を図り、考えを比較したり深めたりすることができるよう工夫する必要がある。また、活動後に考えを見直す時間を確保したり、自己評価等を工夫したりすることで、育成を目指す資質・能力が身に付いたかどうかの「振り返り」をさせることが大切である。

小学校 社会

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、全学年において概ね身につけているが、今後も、児童自らが問題解決の仕方や手順等の見通しをもち、主体的に学習できるような手立てを工夫することが大切である。
- ・主体的な学びを促すためには、「位置や空間の広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」等といった、学習を進める上での視点や、思考の進め方について丁寧に指導していく必要がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、単元全体をまとまりとして見通した単元計画を立てて、問題解決的な学習過程を取り入れることが大切である。
- ・資料の読み取りや、読み取った事柄を分析し考察する力を伸ばすために、授業の中で調べ、考え、表現するための活動を重視し、児童一人一人の学習時間や活動時間を十分に保障することが大切である。
- ・グラフの読取を算数科、世界の国々の様子を外国語科と関連させたり、日々の学習の中で、地図帳を活用し、他教科の学習で登場した地域や地名を調べさせたりするなど、教科横断的な視点を取り入れた指導を行うことが効果的である。
- ・歴史の学習について、時代の大まかな流れ、各時代の特徴や出来事をとらえさせるために、事象の因果関係に着目させて指導するとともに、単元のまとまりごとに新聞にまとめたり、プレゼンテーションを行ったりすることが効果的である。

小学校 算数

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、授業において、身の回りの素材を活用したり、多様な数学的な見方・考え方が期待できる課題設定を工夫したりすることで、児童が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるようにすることが大切である。
- ・主体的な学びにつなげるために、既習事項との違いや生徒の疑問点等から学習問題を設定するだけでなく、学習問題とまとめの整合性を意識して指導計画を立てることで、児童が見通しをもって学習できるようにすることが重要である。
- ・少人数指導、学習サポーター等を活用し、個に応じた指導の充実を図ることで、全体の習熟度向上を図ることが大切である。
- ・「思考力・判断力・表現力」の育成のためには、授業の中で話し合いの視点を明確にし、比較検討の学習過程において表現を工夫して他者に伝える場面や、多様な考えを学びあう場面を意図的に設定していく必要がある。
- ・学習内容や学習過程を振り返る場面において、学習問題に即して自分の言葉でまとめを書く時間を十分に確保するとともに、適用問題を利用した課題を与えるなどして、応用力を身に付けさせることが大切である。

小学校 理科

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、授業において自然と親しむ中から生まれる発見や疑問を大切にした学習問題や、知的好奇心を刺激し、興味・関心や多様な考えを引き出せる学習問題を設定して展開することが大切である。
- ・自然に親しむ活動や、体験的な活動に代わる活動として GIGA 端末を活用して、日常的かつ疑似的に自然体験をさせることも効果的である。
- ・観察、実験の技能や、結果の理解については概ね身に付いているが、結果の考察や活用については課題がみられる傾向にある。予想や仮説を立てる場面や、観察、実験の結果から整理し、考察、説明する場面において自分の言葉で表現させる等の言語活動の充実を図る必要がある。
- ・既習内容や生活経験をもとに、見通しをもって観察・実験を行い、その結果について比較したり、関連付けたりするなど科学的に探究する力を育成する活動を重視していく必要がある。
- ・個別に観察等を行ったり、調べたりする場面や、グループで実験結果等について議論する場面、一斉に情報を共有する場面等、学習活動に応じて学習形態を工夫することが大切である。

中学校 国語

- ・学習計画や教師モデルの提示を行う等、学びの見通しがもてるように学習環境を工夫することで、生徒の意欲を高めていく必要がある。
- ・年間指導計画の中に、効果的に言語活動や多様な学習形態の工夫を位置づけることは、生徒の主体性を引き出す上で効果的である。また、活動後に自身の考えを見直す時間を確保したり、自己評価や相互評価によって振り返ったりする活動を充実させることで意欲を高めることができる。
- ・「話す・聞く能力（話すこと・聞くこと）」については、授業の中で、個々の考えを明確にした上で「何のために話し合うのか」等の目的を明確にし、必然性のある交流を効果的に取り入れていくことで、思考し表現する力を高めていく必要がある。
- ・「書く能力（書くこと）」については、ノート指導の充実を図り、思考や学びを自ら整理する力につなげていけるようにするために、日常的に自分の考えを短い文章で書く経験を積ませることが重要である。その中で、観点を明確にして相互評価を行わせていくことも効果的である。
- ・「読む能力」については、日常的な読書活動に加え、学校図書館司書と連携を図り文章に親しませることで粘り強く読み進める力を伸ばしていく必要がある。
- ・説明文を読み取る際の文章の構成や接続詞を意識した読み取りの練習を行っていくことが大切となる。また、幅広いジャンルの優れた文章に触れさせていくことで、様々な表現技法を学んだり、語彙の習得を図っていったりすることにも重点をおいて指導を行うことが効果的である。

中学校 社会

- ・授業において、学ぶ視点や思考の進め方の指導（位置や分布、時代や年代、効率と公正等）を丁寧に行うことで生徒自らが問題解決の仕方や手順等の見通しをもち、主体的に学習できるような手立てをとる必要がある。
- ・社会的事象や日常生活から生徒の興味・関心に基づき課題設定したり、思考を促す問いとなるような学習課題を設定したりすることで、生徒の意欲を引き出すことが大切である。
- ・互いに学び、深め合う場を設定し、言語活動を充実させることは、思考力・判断力・表現力を育成する上では重要である。その際、目的に応じた学習形態の工夫や話し合いの視点の明確化を図ることが重要である。
- ・資料を読み取るだけでなく、必要な資料を選択し活用させる学習過程を計画するなどの手立てを講じる必要がある。その際、GIGA 端末を活用した資料収集も効果的である。
- ・「知識・理解」を身につけさせるために、繰り返しの学習だけでなく、授業を通して身につけた知識や技能を活用して自分の言葉でまとめるなど、表現する活動を意図的に取り入れる必要がある。
- ・他教科において登場した地域や地名について地図帳を使って調べたり、外国語科で学んだことを社会科での学習と関連付けたりするなど、教科横断的な視点を取り入れた指導が大切である。

中学校 数学

- ・生徒の意欲を引き出すために、授業において身の回りの素材を利用し、多様な数学的な見方や考え方が期待できるような学習課題の設定が大切である。
- ・授業において、「事象の共通点、相違点、一般性を見出す」「考えの根拠やその良さに気付くこと」「理論的に説明できるようにする」等、話し合い活動の視点を明確にし、多様な考えを学び合う場面を設定することで、数学的な見方や考え方を深めさせる必要がある。
- ・話し合い活動において、ペア学習やグループ学習等、目的に応じて効果的な学習形態を工夫し、自分の考え方を説明したり、相手の考え方を聞いたりすることで、思考力の高まりが期待できる。
- ・数学的な技能を高めるために、既習事項から解決の見通しをもち、自力解決する時間を十分に確保する必要がある。その際には、結果や方法の見通しをもたせる指導や、課題に取り組む視点、思考の進め方について丁寧に指導することが大切である。
- ・問題から必要な情報を読み取り、選択して整理し、表現したり、習得した知識・技能を基に思考させたりする場면을授業において日常的に設けていく。
- ・数学科で身につけた技能を社会科における、表やグラフ等の具体的なデータから資料の傾向を把握したり、比較したりする活動に活用させるなど、教科横断的な視点で指導計画を立てることも効果的である。
- ・少人数指導、学習サポーター等を活用し、個に応じた指導の充実を図ることで、全体の習熟度向上を図ることが大切である。

中学校 理科

- ・生徒の意欲を引き出すためには、演示実験や既習事項を生かした導入の工夫を図り、課題を自ら見出す授業展開を工夫することが効果的である。特に、生徒の知的好奇心を刺激し、興味・関心や多様な考え方に対応できるような学習課題の設定が必要である。
- ・科学的に探究する力を伸ばすために、既習事項や生活経験を基に、目的意識と見通しをもって観察、実験に取り組めるような授業展開の工夫が必要である。
- ・予想や仮説を立てる場面、観察、実験の結果から整理し、考察、説明する場面において、話し合い活動などの言語活動を充実させることは、科学的な思考・表現の力をさらに伸ばすことにつながる。
- ・観察、実験や自然体験、科学的な体験を基盤として、生徒が、主体的・協働的に問題解決を図っていくことができるような支援を充実させることが大切である。活動が難しい場合には、GIGA 端末を活用して資料を提示する等、疑似体験的な活動を取り入れることも効果的である。
- ・小学校や高等学校との系統性や理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるよう留意することが必要である。
- ・観察、実験等によって得られた知識を、身の回りの自然の事物・現象と関連付けて考えさせる活動を取り入れることで、自然現象についての知識・理解をさらに伸ばしていくことが大切である。

中学校 外国語科

- ・小学校の外国語科授業での学習内容を踏まえ、系統性を意識した指導を心がけることで、外国語の学習への意欲を持続させることが重要である。
- ・生徒に興味・関心をもたせるために、音楽や映像などを活用し、英語に身近に触れる機会を多くするなどの工夫が有効である。
- ・「聞くこと」「話すこと」では、ALTを活用して、英語のリズムや発音に慣れるように反復練習を行ったり、生徒同士での会話量について帯活動を通して増やしたりする工夫が必要である。
- ・「書くこと」については、テーマや場面設定の中で、まとまりのある簡単な文章で自分のことについて書けるように、授業の終末や単元末に時間を確保して指導する必要がある。特に1年生は、基本文や産出語彙（正確に書けなければいけない単語）の定着を図らなければならない。
- ・「やり取り」「即興性」を意識した指導の工夫をするとともに、既習内容を活用してコミュニケーションを継続することを重視した指導の工夫が必要である。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちを適切に表現できるよう、複数の領域を統合した言語活動を行う必要がある。特に「書くこと」の力を伸ばすために、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、情報や自分の意見を整理して書く活動を計画的に設定していくことが必要である。
- ・3年生においては、教科書以外の本文も活用して多読を行い、同じようなテーマや場面で内容を理解し、まとまりのある文章構成に慣れることが「読むこと」「書くこと」についてさらに力を向上させるために必要である。